

製品名: Dyrk1A ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10234**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	90kDa

抗原情報

遺伝子名	DYRK1A
別名	DYRK1A; DYRK; MNB; MNBH; Dual specificity tyrosine-phosphorylation-regulated kinase 1A; Dual specificity YAK1-related kinase; HP86; Protein kinase minibrain homolog; MNBH; hMNB
遺伝子 ID	1859.0
SwissProt ID	Q13627
免疫原	抗血清はヒト DYRK1A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

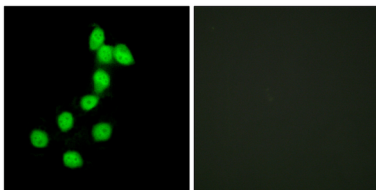
背景

この遺伝子は、二重特異性チロシンリン酸化制御キナーゼ (DYRK) ファミリーのメンバーをコードしています。このメンバーは、核

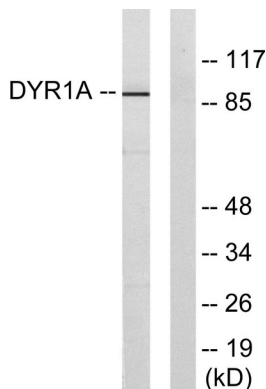
標的シグナル配列、タンパク質キナーゼドメイン、ロイシンジッパーモチーフ、そして高度に保存的な 13 連続ヒスチジンリピートを含みます。セリン / スレオニン残基およびチロシン残基の自己リン酸化を触媒します。細胞増殖を制御するシグナル伝達経路において重要な役割を果たし、脳の発達にも関与している可能性があります。この遺伝子は、ショウジョウバエの *mnb* (ミニブレイン) 遺伝子およびラットの *Dyrk* 遺伝子と相同性があります。21 番染色体のダウン症候群重要領域に局在し、ダウン症候群に関連する学習障害の有力な候補遺伝子と考えられています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、5' UTR または 3' 共に互いに異なる複数の転写バリエーションが生成されます。代替産物:追加のアイソフォームが存在するようです。触媒活性:ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。発達段階:発達中の中枢神経系で発現します。疾患:ダウン症候群胎児の脳で 1.5 倍過剰発現します。酵素調節:RANBP9 によって阻害されます。機能:細胞増殖の核機能を制御するシグナル伝達経路で役割を果たす可能性があります。その配列および外因性基質のセリン、スレオニン、およびチロシン残基をリン酸化します。PTM:チロシン残基が自己リン酸化されます。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MNB/DYRK サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: RAD54L2/ARIP4 と相互作用する (類似性による)。RANBP9 と相互作用する。組織特異性: 普遍的。骨格筋、精巣、胎児肺、胎児腎臓に最も多く存在する。

研究分野

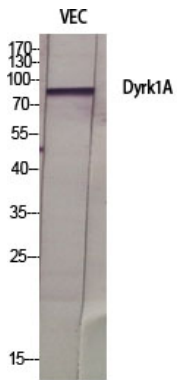
画像データ



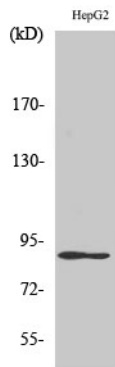
DYR1A 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



DYR1A 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



1: 500 に希釈した Dyrk1A ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット解析。



1: 500 に希釈した Dyrk1A ポリクローナル抗体を使用した HepG2 細胞のウエスタンブロット解析。